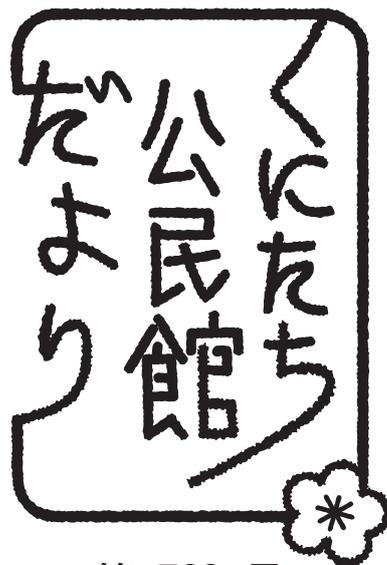


講座参加者の声

公民館では年間を通してさまざまな主催講座が行われています。

昨年10～12月に実施された講座に参加された方々に、感想を寄せていただきました。講座の雰囲気を味わっていただければと思います。



第 768 号

2024年 2月 5日

(令和 6年)

「くにたち公民館だより」

ホームページ▶



発行

国立市公民館

〒186-0004

国立市中1-15-1

TEL 042-572-5141

FAX 042-573-0480

休館日：毎週月曜日

心の癒しになる短歌作り

永田 ゆりの

昨年10月から12月にかけて「子育て短歌入門講座」「子育ての日々を三十一音で語り合おう」(全7回・保育付)が実施されました。講師に花山周子さん(歌人・装幀家)をお迎えし、子育て期の今を短歌にして表現することを学びました。短歌を通して垣間見えてくるそれぞれの暮らしや子育て中の想いを知り、たくさん共感し合う場面がありました。講座中は、始終あたたかな時間が流れていました。

いつもお世話になっている公民館で、子育ての日々を短歌にするという講座の案内を見て、子育て中の私は面白そう!と思い参加してみました。短歌は俳句よりも長く難しいイメージでしたが、講師の花山周子先生は、同じ目線でわかりやすく、短歌作りの楽しさを教えてくださいました。

初回は短歌作りゲームをして、五音と七音の言葉が沢山書かれてある紙の中から一つずつ言葉を選んでいき、みんなで短歌を作りました。言葉をつなぐ度に歌のイメージが変わり、定型の五七五七七に当てはめればちゃんと歌になることを知って、私の中の短歌のハードルは下がっていきました。講座の3回目からは、各自お題に合わせた短歌を作ってきて発表し、先生から助言をいただきました。「秋」「食べ物」「窓」「子ども」など、身近な言葉から連想される情景を三十一音にまとめるのは面白く、新鮮でした。自分の思いや体験を表現すると、日常の中にあ

参加者の作品

赤や黄がまぶしく光る葉の下で 大きな口でアイスを待つ子
十月の小雨降る道抱つこの娘を湯たんぼ代わりにぎゅっと抱きしめ
早朝に息子の咳で目が覚めたふとんかけなおす あら肌寒い
泣き止んで遊んでいるのは本当か覗いてみたい保育室の中
どれにする? 毎朝選ぶ髪飾りキラキラしてる2人の世界
道端にキラリと光る石拾い娘の手のひらに広がる宇宙
公園に着いたそばから「これあけて」シャボン玉に勝つ唐揚げ強し
「いかないよ」お風呂に行くよりまだ遊ぶバスボム見つけて「おふろいくよ」
保育室に 子どもを預け学ぶ時 親子で共に一歩成長

(2023年10月6日～12月8日 開催)

花山先生は始めに「歌にしたことは忘れない、記憶に残る大切な宝物になる」と仰っていました。その通りしっかりと思い出すことができ、清々しい気持ちになりました。これからも日々の中で心穏やかに、短歌作りを楽しみたいです。人生の糧になる学びの機会をいただき、ありがとうございました。



↑作った短歌を発表し合います
講師の花山周子さん→



昨年10月8日(日)に「ジェンダー講座「日頃のモヤモヤの正体は……？」」に参加した。三連休の中でしたが、小学生から70代まで幅広い世代の方が参加してくださりました。講師に澤柳孝浩さん(国際NGOプラン・インターナショナル)をお招きし、様々なワークショップを通して、他者の考えや自分の中にある思い込み等を知り、ジェンダーの平等・不平等について理解を深める機会になりました。グループワークでの意見交換は、話が尽きませんでした。講座終了後のアンケートには、「今後も考え続けていきたい」という感想が多く寄せられました。

※「ジェンダー・ステレオタイプ」とは…

社会に浸透しているジェンダーに基づく固定観念や思い込み、偏見のこと

昔の当たり前前は、今の当たり前ではない

須藤 孝也たかなり

ジェンダー講座というとなんと難しくモヤの正体は?という少し砕けた感じに惹かれて、参加しました。

にあつて新たな発見や気づきがありました。

講義だけかと思っていたのですが、ワークショップ形式だったので、緊張もしながらメンバーとの意見交換もたくさんできたので参加した達成感がありました。参加者は25人ぐらいで、ジェンダー講座は参加者が少ないそうですが、今回は今までにない参加人数と講師が言っていました。年齢層も幅広くお母さんと一緒に小学生から大学生、社会人、仕事をリタイアした人もいたので、今回のテーマである「ジェンダー・ステレオタイプ」の経験値の違いなどが豊富



講師の澤柳孝浩さん

違いなどを感じました。

今では男性女性の性別のちがいがだけで、役割を分けてしまうことはいけないこととして認識しています。が、私の子ども頃は男の子は男らしく力仕事、家事をするのはお母さん、給与は女性より男性のほうが高くて当然などと、周りを見ても社会全体でそれが当たり前だったように思います。特に日本はジェンダーレスへの取り組みが遅く、今になって慌てているように感じます。

ジェンダーの問題について昔は当たり前だったことが、今は当たり前でないことがたくさんあります。私もまだまだ昔の固定観念や思い込みのままで人と接していることもグループワークで気づかされました。モヤモヤの正体は、私の希薄なジェンダーレス意識だったかもしれません。

モヤモヤを越えていくには

山岸 佳子よしか

この講座は「公民館だより」でみかけて、10歳の娘に参加させて一緒に参加した。ジェンダーギャップ指数が世界100か国中100位という日本の現状を知っておいてほしくて。ちよつと早いかな?と思いつつ、7歳の息子も一緒に。

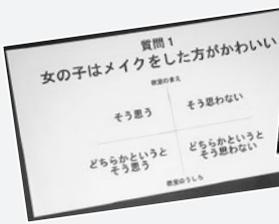
女性として日本で過ごしてきた私にとって、ジェンダーに関する話は、モヤモヤ、どころか心が苦しくなる。自分は、マイノリティ側で、就職活動や子育てで、いやな思いをしてきた経験があり、それは思い返すのも苦しい。でも、それを子どもたちの時代には変えていきたい。

そして講座参加後、二人の子どもたちに感想を聞いたら「楽しかった!」との軽やかな答え。理由を推測してみる。二人は、男の子と女の子の違いを付箋に書いていくワークが楽しかったと言っていた。そのあと、男女の違いはあってもいいの?という話し合いをした。彼らも発言をし、周りの大人たちは真摯に耳を傾けてくれた。ここに参加する大人たちは、いつもの大人と違う。

「自分の発言は果たして正しいのだろうか?と迷いながら話している」ようにみえた。子どもとの会おう大人って、いつもこれが正しいという正解があるんじゃないか。例えば、国語の授業で、先生が生徒に「この主人公はどう感じている?」と聞いて、正解とするゾーンから外れた答えをしたら、それは板書されることなく、他の子が発言した正解に近い解答だけを黒板に書く。正解はあらかじめ決まっているかのようでも、世界には、正解のない問いがなんて多いことだろう。島国でみんなが似ている、という経験をしてきた日本人。自分と立場の違う人の発言を、自分への否定ととらえず、「そういう考え方もあるんだな」と考え、自分の発言もひるまずにできる大人。そういう大人を増やすことが大切だと思っていた。そして、自分の発言でだれかを傷つけたとしたら、謝罪するしかない。だれかの発言で傷ついたら、それも率直に伝えるしかない。お互いが傷つけ、傷つけられる可能性がある。でも、そのやりとりを通らずに、お互いの理解、そして成長はないように思える。

右頁のジェンダー講座内で行われたワークショップを紹介します。
 ～もしみなさんが講座に参加していたら、どのように考えますか？～

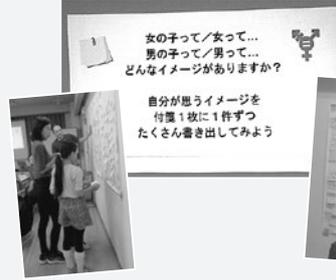
ワークショップ①



- Q 1. 女の子はメイクをした方がかわいい
 - Q 2. 男の子は人前で泣かない方がいい
 - Q 3. 女性は男性より、家事や育児に向いている
- 上記の質問に対し、

- ① そう思う ② どちらかというと思う
 - ③ どちらかというと思わない ④ そう思わない
- に分かれ、部屋の中を移動しました。移動後にそれぞれ選んだ理由を発表しました。

ワークショップ②



女の子/女性、男の子/男性にどんなイメージがあるかを付箋1枚に1件ずつ書き出し、貼り出しました。それぞれたくさんのイメージが貼り出されました。その後、このようなイメージを何によって/誰によってもつようになったかを考えて付箋に書き、貼り出しました。

「あってもいい」か「あってはいけない」に分け、その理由を考えました。

その後、グループ内で意見交換を行いました。

- 例1) 行事の準備で、男子は力仕事をしなさいと言われ、女子は重いものを持たなくていいと言われることがあります。
- 例2) 両親は共働きなのに、家事は母親だけがやります。
- 例3) 日本の中学校の校長は、91%が男性、9%が女性です。
- 例4) フルタイム、パートタイム含めて全ての日本の給与所得者の平均給与は男性が545万円、女性は302万円です(2022年)。
- 例5) 電車で女性専用車両はあるが、男性専用車両はないです。

ワークショップ③



『82年生まれ、キム・ジヨン』を読む

女性対象

～文学作品から考える女性の生き方～

講師 山岸 郁子 (日本大学)

女性の生き方を真正面からテーマにしたこの小説からは、どこにでもいそうな主人公が経験した女性としての失望や悲しみが、彼女の個性や性格のせいではなく、彼女が生きる社会に起因するものだということが見えてきます。

今回は、講師に進行や補足をしていただきながら、参加者それぞれが感想を伝えあうことを中心に、作品のより深い理解、新たな発見につながればと考えています。少人数で、お話のしやすい雰囲気を進めたいと考えていますので、こうした講座が初めてという方もお気軽にご参加ください。

第1回 3月10日(日) 昼2時～4時

第2回 3月17日(日) 昼2時～4時

第3回 3月31日(日) 昼2時～4時



ところ 公民館 3階集会室

対象 女性12名

申込先 2月5日(月)～2月17日(土)までの間に、ホームページまたは往復はがきにて申込(はがきの方は必着)。往復はがきで申込の方は、講座名、出席できる回、氏名、住所、電話番号をご記入ください。

*全回出席できる方、市内在住・在学・在勤の方優先
 *応募者多数の場合抽選

※予め下記の本または映画をご覧の上、ご参加ください。

本 : 『82年生まれ、キム・ジヨン』

チョ・ナムジュ著、斎藤真理子訳(筑摩書房)

映画: 『82年生まれ、キム・ジヨン』

2019年製作、キム・ドヨン監督、118分



〈親子で遊ぼう・考えよう〉

3000個の紙コップで遊ぼう

講師 山田 修平

(NPO法人東京学芸大こども未来研究所)

紙コップ3,000個を使って親子で遊びます。部屋が紙コップであふれる空間では、いつもと違う紙コップとの関わりが生まれます。宝探しをしたり、バランス遊びをしたり、タワーを作ったり、自由に楽しく遊びます。

とき 3月3日(日)朝10時~12時

ところ 公民館 地下ホール

持ち物 飲み物、汚れてもいい服装

対象・定員 子ども(2歳から小学校低学年まで)と

保護者15組(家族単位です)

※応募者多数の場合抽選

申込先 2月10日(土)夜9時までの間に、
ホームページより申込



〈教育講座〉

不登校の子どもに寄り添う

~周りの大人ができること~

講師 田嶋 大樹(東京学芸大学)

令和4年度の小・中学校における不登校児童生徒数が29万9,048人となり、前年度比22.1%増と過去最多を更新し、10年連続で増加となりました。現代的課題のひとつとして捉えられている不登校支援は地域課題でもあり、不登校の子どもに対する適切なケアや居場所づくりなどの対応が求められています。

講座の前半では、講師の田嶋さんに、現在の不登校の特徴、周りの大人や支援者に求められる不登校の子どもとの関わり方について、事例の動画などを参考にしながら解説していただきます。後半では、グループに分かれて話しあい、学びを深めます。保護者、祖父母、不登校支援に関わる方だけでなく、不登校のことを理解したいと思う地域の方もぜひご参加ください。不登校の子どもとの関わりや支援について、周りの大人ができることを一緒に考えてみませんか。

とき 3月1日(金)朝10時~12時

ところ 公民館 3階講座室

定員 20名(申込先着順)

申込先 2月9日(金)朝9時~電話で公民館へ

〈性教育講座②/女性の生き方を考える講座・公開講座〉

いのちとからだのおはなし

~子どもと一緒に学ぶ性教育~

講師 村上 まどか (EdenAcademy)

「子どもに性教育をしたいけれど、どうしたらよいかわからない」、「性に関する正しい知識を子どもに持ってほしい」……現在育児中の市民の声がきっかけとなり、本講座を企画しました。

国立市を拠点に性教育の講座やワークショップを展開する村上さんに、クイズや紙芝居を取り入れながら、いのちのはじまりや、自分のからだを自分で守り抜く知識などについてお話いただけます。当館にて2月から実施する性教育講座(大人向け)の続編として、今回は子どもと保護者が一緒に学べる内容となっていますので、子どもと一緒にご参加ください(祖父母等でも可)。

防犯にも自己肯定感の向上にも役立つ性教育について、子どもと一緒に考えてみませんか。

※「女性の生き方を考える講座—女性のライフデザイナー—(2023年5月~9月実施)の参加者の学びの中から出てきたテーマを取り上げました。

※2月から実施する性教育講座「性を学ぶことはよりよく生きること」(全3回・1月号の公民館だよりに案内掲載)に参加していない方もご参加いただけます。

とき 3月16日(土)朝10時~12時

ところ 公民館 地下ホール

対象・定員 子ども(5歳から小学生)と保護者15

組(申込先着順)※1組3名まで。参加者以外の同伴不可。※参加者の性別は問いません。

申込先 2月14日(水)朝9時~電話で公民館へ

〈環境講座〉

昨今の異常気象

—過去100年にない暑さの訳—



講師 大野 治夫^{はるお} (気象予報士・お天気キャスター)

昨年夏から秋にかけての暑さは私たちの記憶に新しいところ。35度を超える猛暑日が続く、日本各地で猛暑日の年間の最多記録が更新されました。9月、10月も例年より暑い日が連続し、11月に入っても度々25度以上の夏日が観測され、過去100年にない暖かさであるとも言われました。どうしてこのような気象状況になっているのでしょうか。そこには、どのような理由や原因があり、私たちの生活にどのような影響をもたらすのでしょうか。

今回は、これらの暑さ、暖かさがなぜ続いたのかその理由や原因について、またこの先どうなっていくと予想されるのか、環境問題との関係などについてもお話いただきます。

とき 2月18日(日) 昼2時～4時
 ところ 公民館 3階集会室
 定員 25名(申込先着順)
 申込先 2月8日(木) 朝9時～電話で公民館へ

〈図書室のつどい〉

震災復興現場の壮絶ルポ 『下級国民A』

お話し 赤松 利市^{あかまつ りいち} (作家)

—“上級国民”があるのなら、その対語は“下級国民”だろう。確かに末端土木作業員や除染作業員に従事するしかなかった私は“下級国民”だった— (表題作本文より)

破綻した会社と生活を立て直すために赴いた震災復興現場で赤松さんが経験したのは、想像を絶する「差別」と「貧困」であり、まさに「下級国民」の生活でした。

「住所不定」「無職」の生活を送りながら、作家デビューした赤松さんは、政治やメディアで語られる「美しい日本」、「生涯現役」といった美辞麗句とは異なる現実を、小説を通じて舌鋒鋭く表現し続けています。

異色の作家による渾身のルポルタージュを通して、私たちの周辺にありながらも、見過ごしがちな「差別」や「貧困」について、赤松さんのお話を伺いながら、考える機会とします。

〈赤松さんの本〉

表題作 (CCCメディアハウス)、『鯖』、『藻屑蟹』、『犬』(いずれも徳間書店)、『らんちう』(双葉社)、『ボタ子』(新潮社)、『アウターライズ』(中央公論社)ほか

とき 2月24日(土) 朝10時～12時
 ところ 公民館 地下ホール
 定員 60名(申込先着順)
 申込先 2月7日(水) 午前9時～電話またはホームページより申込



公民館図書室 休室のお知らせ

3月5日(火)から3月7日(木)まで本の点検・整理のため休室します。
 *新聞は、朝9時～夕方5時の間、2階事務室前で閲覧できます。



公民館運営審議会報告

1月9日(火) 第34期第15回例会を開催。委員14名。館長、職員2名出席。傍聴人2名。

前回事務録確認
 議事録修正あり

報告事項
 公民館だより編集研究委員会、社会教育委員の会、東京都公民館連絡協議会の担当委員より報告等があった。

審議事項
 ○人事要望案について
 前回に引き続き審議し、複数の委員の意見に基づき、案を一部修正することに合意した。12日に修正した案を市長・教育長に提出す

る。要望書では、4週間後までに書面による回答を依頼する旨を明記することとした。今回の要望書に関する市長・教育長への面談は求めないことを確認した。

○諮問「公民館の運営や事業に『市民の声』を活かしていくための方法や工夫について」
 前回決定した3つの検討班(インタビュー検討・アンケート検討・振り返る会検討)の検討結果が書面と口頭で報告された。意見交換の後、提案のあった3つの班を再編し、インタビュー検討班と事業アンケート検討班の2つの班とすることを了承した。振り返る会の実施は再検討が必要とした。

次回2月13日(火) 夜7時15分から講座室。傍聴歓迎。(矢野)

—4月(ロビー5月分) 会場調整会のお知らせ—

申込書のポスト投入期間	2月3日(土)～21日(水)
公用使用の貼り出し	2月9日(金)頃
予約の重なりがあった団体の掲示開始日 (国立市 HP にも掲載)	2月23日(金・祝) ▶重なり状況
会場調整会	3月2日(土)朝10時～

※会場調整会は朝10時までには受付を済ませてください。



今月の公民館 (2月～3月中旬)

- 6日(火) 朝～ 三原色で描く キミコ方式水彩画展
- 8日(木) 夜 ドラマ教育講座「演劇教育って何だろう？」
- 17日(土) 朝～ 性教育講座①
「性を学ぶことはよりよく生きること」
- 17日(土) 昼～ 文化・芸術講座「もっとやきものを楽しもう！」
- 18日(日) 昼 環境講座「昨今の異常気象
—過去100年にない暑さの訳—」
- 18日(日) 昼 共生社会のマナビ
「共生社会への道はいかにひらかれるか」
- 24日(土) 朝 図書室のつどい『下級国民A』
- 3月1日(金) 朝 教育講座「不登校の子どもに寄り添う
～周りの大人ができること～」
- 3日(日) 朝 親子で遊ぼう・考えよう
「3000個の紙コップで遊ぼう」
- 10日(日) 昼～ 「『82年生まれ、キム・ジヨン』を読む
～文学作品から考える女性の生き方～」
- 16日(土) 朝 性教育講座②
「いのちとからだのおはなし ～子どもと一緒に学ぶ性教育～」

講座の開催状況などに変更があった場合は、公民館入り口付近への掲示や、ホームページでお知らせします。ご不明の点はお問合せください。

公民館 ☎ (572) 5141

公民館の状況▶



ひろば



健康スポーツ吹矢を始めよう！

100才迄歩こうでも紹介されたスポーツ吹矢。健康維持とゲーム感覚の楽しさを体感してみよう。年齢・男女関わらず、どなたでも、手軽に始められます。日時 週に2～3回(坂井迄予約) 場所 公民館、北プラザ、体育館等 連絡先 吹矢協会坂井090(249)9175

フォトサークルくにたち

写真を楽しみたい方、もう少し上手く撮りたい方、一緒に活動してみませんか？活動を通して、会員相互の親睦を図っているデジカメ初心者のサークルです。

日時 毎月第2木曜日
場所 富士見台二丁目集会所 他
連絡先 市守090(742)7905

ターゲットボードゴルフ体験会

ゴルフ経験の有る方に、手軽に楽しめるターゲットボードゴルフ体験会のご案内。要予約。費用は無料、運動する服装で。

日時 2月29日(木)、3月7日(木)、14日(木)いずれも昼2時から
場所 谷保第三公園グラウンド
連絡先 TBG協会坂井090(249)9175

フットサルチーム「ソラーナ」

市内で活動中の男女エンジョイサークルです。10～60代まで幅広い年代で毎週汗を流しています。熟練指導者によるサポート有り。お気軽に体験等から御連絡下さい。日時 毎週日曜日 昼3時～6時 場所 市内小学校体育館 連絡先 磯080(3258)6711

写真展(令和5年度)光遊会

サークル活動で撮影した、自然の美しさや建物等1年間の集大成の写真を展示しています。是非ご覧ください。

日時 2月14日(水)～18日(日)
場所 公民館 1階 ロビー
連絡先 山崎(507)2769

「ひろば」写真募集

国立市内の風景や行事などの写真を募集しています。ご協力いただける方は公民館までご連絡ください。

〈サークル訪問388〉 英語デイベートの会

広辞苑によればデイベートとは、「あるテーマについて肯定派と否定派とに分かれ行われる討論」とある。この会はその討論を英語で挑戦する。会の発足はなんと半世紀近く前にさかのぼる。デイベートに馴染みのなかった当時、先駆的な会だったという。その気概はコロナ禍でも生かされていた。公民館閉館中、多くのサークルが休止を余儀なくされたが、いち早くオンラインで2年間休むことなく活動を続けた。

「主体的に意見を持てるようになった」「英語で話すことに臆病だったのが自信につながった」「メンバーの方たちの知識、経験を聞けることが魅力的」等々。まさにここは、英語の学習を超えた広い視野、世界を見せてくれる場だと感じた。また日本人は自分の意見を持つことより、大きな流れに同調する方を選びがちだ。こういう時代だからこそ、デイベートを学ぶ意味もあるのではないか。

ペラペラ話せなくても、聞いているだけでも、いつでも参加退出もよし。会費なし。

新しいメンバー大歓迎！
日時 毎週土曜日 昼2時～夕方5時
場所 公民館
連絡先 <https://kunitachidebating.blogspot.com/> ホームページをご覧ください。

〈文・写真 高木 裕子〉



「とにかく自由を大切に！」